

サトイモ（トンネル早掘り）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
作 型													
主な作業	催芽	植え付け	マルチ被覆	トンネル被覆	トンネル除去								収穫

技術体系

1 作型の特徴

この作型は、高温多湿条件で催芽処理と植え付け後生育前半のトンネル被覆で生育を促進させるのが特徴であり、マルチ被覆も必須となる。植え付けは2月中旬から3月上旬、収穫期は6～8月である。

2 適応地域 全域

3 栽培条件

(1) 温度

生育及び発芽適温は25～30℃と高いが、12～15℃程度でも発芽する。

地上部は低温に弱く、霜害を受けやすいが、芋は短期間であれば5℃までの低温に耐える。

(2) 光

多日照が生育を良くする。

(3) 土壌

土質に対する適応範囲は広く、すべての土壌で栽培可能である。しかし、土壌水分が作柄を最も左右するため、乾燥が激しいと芋の肥大が悪く、収量・品質ともに劣る。特に子芋及び孫芋肥大期の乾燥は、芋にき裂を生じて腐敗の原因となる。このため、耕土が深く、保水性の高い壤土が最も適する。

土壌酸度の適応範囲は広いが、病害発生の関係

からpH6.0～6.5が適当である。

また、忌地性があるため、同一圃場での連作は避ける。

4 施設装備 トンネル

5 経営目標

- | | |
|------------|------------------|
| (1) 収量 | 1.5～2.0 t / 10 a |
| (2) 投下労働時間 | 197時間 / 10 a |
| (3) 所得率 | 51% |
| (4) 経営規模 | 60 a |

(家族労力2人の場合)

栽培技術

1 品種及び種芋量

一般的には早生種の「石川早生」を使用するが、さといもの中では低温・乾燥に弱い部類に入ることに留意する。

10 a 当たり200～250 kg の種芋を準備する。種芋は丸型で豊満な40 g 前後の頂芽が健全なものが理想であるが、事前に大・中・小に分類し、大芋から順次植え付けの準備を行う。特に、この作型では大芋・中芋を中心に植え付けていく。

2 催芽

(1) 催芽床準備

10 a 当たり20㎡必要である。床土は事前に消毒し、トンネルをかけ十分に保温しておく。

(2) 伏せ込み

深さ25 cmの位置に切りわらを3 cm程敷き込み、その上に6 cmの間土を入れる。1㎡当たり200~300個の種芋を、頂芽を上にして並べ、その上から4 cmの覆土を行い、十分に灌水する。その後、透明マルチで被覆し、トンネルをかける。

(3) 温度

萌芽するまでは20~25℃（萌芽適温24℃）、その後25~28℃を目標に、15℃以下、30℃以上とまらないよう管理する。

(4) 灌水

乾燥を嫌うため、適宜灌水するが、地温の低下を避けるため、晴天日の午前中に行うようにする。

(5) その他

定植の25~30日前から本葉が1枚展開する程度まで行う。催芽苗の堀取りに際しては、根の切断に注意する。

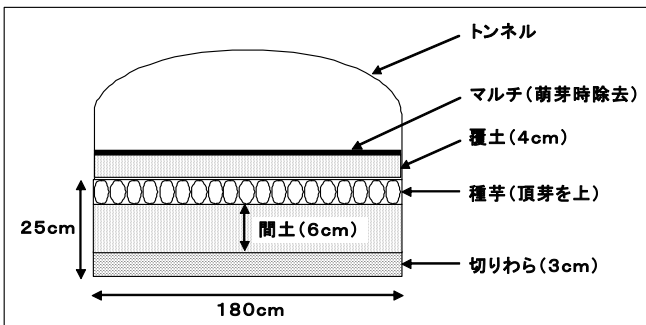


図1 催芽方法

3 施肥

緩効性肥料を用い、全量基肥施用とし、植え付け10日前までには完了させておくが、事前に土壌分析を行い必要に応じて減肥する。

(kg/10a)

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	18.0	20.0	18.0	堆肥2 t
合計	18.0	20.0	18.0	苦土石灰

4 植え付け

(1) 栽植様式

畦幅110 cm、条間60 cm（2条千鳥植え）、株

間25~27 cmで植え付ける（株間は露地栽培よりやや狭めた方が収量面で有利である）。深さは10 cmを基準とする。

(2) マルチ

地温確保と抑草のため、黒マルチを使用する。覆土の問題が生じるため、マルチは無孔のものを植え付け後に被覆し、発芽開始した時に穴を開けていく。この作業は遅れないよう注意する。

(3) トンネル被覆

マルチ被覆終了後引き続き行う。

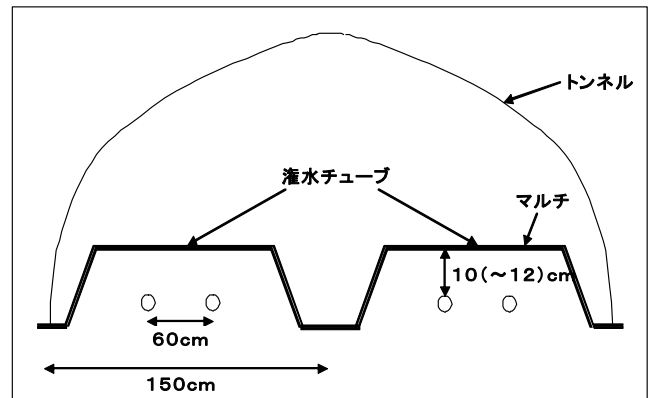


図2 栽植様式

5 植え付け後の管理

(1) 温度

植え付け後約30日を経過すると発芽してくるので、芽を焼かないように注意する。日中はトンネル内気温25~28℃（目標）とし、35℃以上にならないよう換気を行う。また、最低気温が15℃以下になる場合は換気を中断する。

(2) 側芽の除去

側芽は早めに除去し、初期生育を促す。

(3) 灌水

乾燥を避け、適宜灌水を行い収量確保に努める。

6 トンネル除去

時期的には茎葉がビニルに接触し、晩霜の心配がなくなる4月下旬が目途となる。

トンネル除去が早いと温度不足となり子芋の肥大不良、遅いと高温障害や過密による草勢低下を招くので生育・気象等を考慮して実施する。

7 収穫

6月より収穫を始めるが、収穫は天気の良い日に行い十分に陰干しする。